

作業手順（作業名）	危険性又は有害性と発生のおそれのある災害
＜手注湯工程＞	
溶解炉より取鍋に湯を受ける	取鍋と溶解炉の出湯位置がずれたので、湯こぼれして、周囲の作業者が火傷する。
	出湯量を誤認したので、湯こぼれして、周囲の作業者が火傷する。
	取鍋の出湯ハンドルが未固定だったので、溶湯が飛散して、周囲の作業者が火傷する。
	取鍋ライニングが磨耗していたので、湯漏れして、周囲の作業者が火傷する。
	取鍋ライニングの乾燥が不十分だったので、水蒸気爆発が起こって、周囲の作業者が火傷する。
	出湯時のヒューム（亜鉛等）が発生したので、ヒュームを吸い込み、中毒になる。
取鍋（溶湯）搬送作業	荷役搬送装置が急停止したので、取鍋から湯こぼれが起こって、周囲の作業者が火傷する。
	ホイストクレーン等（荷役搬送装置）を誤操作したので、湯こぼれが起こって、周囲の作業者が火傷する。
	吊り具、クレーン等の点検が不備だったので、取鍋が落下して、周囲の作業者が火傷する。
ノロ取り作業	ノロ掻き棒が濡れた状態だったので、水蒸気爆発が起こって、周囲の作業者が火傷する。
	ノロ掻き時に溶湯が飛散して、周囲の作業者が火傷する。
	ノロ回収時に通常よりノロが重かったので、作業者が腰痛になる。
	暑熱で、熱中症になる。
取鍋内容湯温度測定作業	浸透温度計を浸透したの時、溶湯が飛散して、周囲の作業者が火傷する。
注湯作業（搬送・注湯兼用取鍋）	注湯中に鑄枠が移動したので、溶湯が飛散して、周囲の作業者が火傷する。
	注湯量を誤認したので、湯こぼれして、周囲の作業者が火傷する。
	ホイストを誤操作したので、溶湯が飛散して、周囲の作業者が火傷する。
	注湯中に鑄型内でガス爆発したので、鑄枠から湯漏れして、周囲の作業者が火傷する。
	注湯後に鑄枠を振動衝撃したので、鑄枠から湯漏れして、周囲の作業者が火傷する。
	注湯中に取鍋の傾動を誤操作したので、溶湯が飛散して、周囲の作業者が火傷する。
注湯作業（手汲み用取鍋） 〔ヒシヤク〕	配湯時にヒシヤクの乾燥が不十分（コーティング材）だったので、水蒸気爆発が起こって、周囲の作業者が火傷する。
	溶湯が重かったので、作業者が腰痛になる。
湯返し作業	溶解炉へ取鍋を搬送中、取鍋を吊っていたクレーンが急に止まったため、湯こぼれして、作業者が火傷する。